

令和7年10月7日(火)
午前9時45分～11時45分
会場：中原図書館多目的室

令和7年度第2回 川崎市社会教育委員会議図書館専門部会

次 第

1 資料確認

2 令和7年度第1回図書館専門部会議録確認

3 報告事項

(1) 川崎市立図書館事業等について

読書普及講演会、「川崎フロンターレと本を読もう！」事業 他

4 協議事項

(1) 内容：「学校・地域・関連施設それぞれにおける読書サービスを考える 2」 ～団体・機関等の図書館及び読書サービスの利用状況、要望、課題等～ (主に「ボランティア活動」「地域文庫」の課題について)

(2) その他

【配布資料】

資料 No 1：令和7年度第1回川崎市社会教育委員会議図書館専門部会会議録(案)

資料 No 2：「川崎の図書館」(川崎市立図書館活動報告書)令和6(2024)年度

資料 No 3：令和7年度図書館専門部会スケジュールについて(10月7日更新版)

資料 No 4：協議資料「学校・地域・関連施設それぞれにおける読書サービスを考える」

【参考資料】

・協議に係る関連資料(第1回配付済)

(No.2) ボランティア、地域文庫等に係る資料、

(追加) いろいろブックフェア(H29～R2)

・今後の市民館・図書館のあり方 概要版(令和3年3月)

・図書館だより 第68号(令和7年10月発行)

・その他

令和6・7年度図書館専門部会「研究・協議テーマ」

「多様な市民への読書サービスの機会を提供する図書館」

～量から質への図書館サービスの転換を考える～

令和7年度研究・協議スケジュールについて

【令和6年度】

第4回 令和7年 2月28日 研究テーマについての協議① 【終了】
内容：「かわさき電子図書館」について

【令和7年度】

第5回 令和7年 7月8日 研究テーマについての協議② 【終了】
内容：「学校・地域・関連施設それぞれにおける読書サービスを考える 1」
主に「学校」「PTA」の課題について協議を実施

第6回 令和7年 10月7日(火) 9:45～ 研究テーマについての協議③
内容：「学校・地域・関連施設それぞれにおける読書サービスを考える 2」
～団体・機関等の図書館及び読書サービスの利用状況、要望、課題等について～
主に「ボランティア活動」「地域文庫」他の課題について協議

第7回 令和7年 12月中旬～頃 研究・報告書作成に向けたまとめ
内容：各委員の協議・意見を集約
→報告書(案)作成→共有・確認

第8回 令和8年 3～4月頃 研究・報告書発行(予定)

※令和7年10月7日更新

【第6回協議事項】「学校・地域・関連施設それぞれにおける読書サービスを考える②」～団体・機関等の図書館及び読書サービスの利用状況、要望、課題等について～

回答委員(選出区分)	ボランティア・地域文庫			ボランティア・地域文庫		ボランティア・地域文庫		ボランティア	その他	地域文庫
(課題に係る活動の現場)	ボランティア	ボランティア	地域文庫	公共図書館 (ボランティア)	地域文庫	公共図書館 (学校図書館)	地域文庫	公共図書館 (学校・地域)	公共図書館	地域文庫
課題 (委員回答から)		(1)学校機関等との事業連携が少ない 公共図書館との事業連携が少ない 地域団体、家庭との連携が少ない		(2)活動の人員が足りない 活動資金が足りない		(3)図書の数や種類が少ない		(4)図書館や読書活動に魅力を感じるイベント等の仕掛けが足りない (5)周知広報不足である		
第2回協議の流れ (イメージ案)	(A)主要課題(連携)及び対応策			(B)リソースに係る課題及び対応策			(C)具体的な対応策・改善策事例 他			
①現状(課題の対象、現場等)	・授業数やカリキュラム増加との関係もあると思うが、中・高学年に対する読み聞かせの機会が減っている気がする。	予算と人員のところで、難しい面が多くあるかと思いますが、何かの糸口になればと思い選びました。	地域にいと、どこにどんな子育てについての団体が活動しているか見えにくく、協力して活動しようと思っても、どう動いて良いか迷うことが多かった。家庭との連携についても同じで、かえって近所だから、家庭の様子は見せたがらないという要素のあることがわかった。自治会や地域教育会議、小学校に教育運営会議などで情報交換しあってお互いの活動を伝え合い、協力し合えるまでになってきた。	高齢化等による公共図書館、学校図書館のボランティアの担い手不足	蔵書の数や資料購入などの活動資金の不足などの問題は、予測できた。	・読み継がれて来た絵本でも、出版年が古いと公共図書館での蔵書数が少ない、もしくは0の場合もある。 ・小学校の教科書で紹介されている本でも、蔵書数が数冊しかない本がある。	蔵書の数や資料購入などの活動資金の不足などの問題は、予測できた。	学校の保護者の読み手減少。学校図書活動は素晴らしく、先生以外の大人が児童と交流でき児童からも笑顔と元気を貰え、かつ笑顔を届けられる貴重な活動。図書整理に参加し学校図書の多くの蔵書に触れ、家庭の共通話題として図書活動が深まっている。児童直結かつ身近なボランティア活動を「読書のまち かわさき」として今一度、活動参加を呼びかけ活性化したい。活動が無くなる学校があるのは、先人の苦勞を思うとあまりに惜しい。要支援団体は、所属館を通じて、3月や4月頃に募集が伝わるよう工夫を	読書人口減少の昨今、ネット時代特有の新しい社会問題として「フィルターバブル現象」(利用者個人のネット検索や閲覧履歴などが勝手に分析され、類似の情報ばかり表示、多様な情報や意見に触れにくくなる)が挙げられる。個々の現場の課題だけでなく、新しい社会問題も含め分析・解決するために、図書館の強みを生かして何が出来るか改めて考える必要がある。図書館は多様な情報や意見と偶然に出会うことが出来る場所で、その果たすべき役割は益々大きくなっているが、本専門部会で以前から、周知・広報不足と指摘されているところ	市民館・図書館の情報コーナーに置いてもらって参加を呼びかけるしか、現在の所は手立てはない

(補足・進め方)↓

※委員回答

②対応施策等	公共図書館と、地域の文庫や私立図書館が、コラボイベントをする等お互いの存在を多くの方々にアピールし、利用者を増やすことができた良い。	読み聞かせボランティアとして、絵本の読み聞かせやお話を語り聞かせる事などを「おはなしのてまえ」としてお届けしている案内を、区内の全小学校に直接訪問して紹介する。 または全市で取りまとめて、内容を一覧にして各小学校に配付する。	●公共図書館での図書館だよりやおはなし会のお知らせを、文庫で配付。文庫だよりを、図書館に設置 ●家庭との連携:学校と連絡を取り、学校からも家庭への支援をもらえるよう依頼。コロナ禍での文庫来館者が不登校児である例もあり。関係者との連携を密にしたい。お話し会への親子参加があるが、プライバシーに配慮する必要あり。気軽に相談しあえる関係性の構築が課題 ●地域教育会議、町内会、ご近所ピクニック、学校運営協議会等の団体に加入、文庫の現状を伝えると共に、連携を模索	公共図書館のボランティア、高齢化による人員不足に悩む団体多し(15年以上前から) 学校図書ボラ活動が続いている川崎、ただ多くは児童の卒業後は地域人材として埋もれている。要支援団体は、所属館を通じて、3月や4月頃に募集が伝わるよう工夫を	同じ志を持った人たちの寄付をもらって、資金を集めるなど考えてみたが実際には、個人の持ち出しが殆どが現状。今は、ともかく多くの人に資金を提供してもらえるようにお願いし続けるようにしていきたいと思う。 <補足等> ・クラウドファンディング等の検討は	・再販が可能な本であれば、再販を希望する署名を集めて出版社に送る。 ・学校図書館に蔵書としてある場合は、学校図書館司書さんへお願いして本を借りる。 ・公共図書館に購入依頼をする。	文庫は公共図書館や学校図書館にかなわないのは、蔵書数や種類である。子ども達が本を必要とするときは、ためらわずに公共図書館を勧める。しかし最大の問題は公共図書館が徒歩圏内にならない。また子ども達が忙しく、公共図書館に行く時間がない。学校図書館に連絡して、子どもの名前と必要とする資料を知らせて、子どもが本に出会うように調整している。	図書館が近くにない地域の子どもたちでも参加できる、各校または学年を決めて地域で数校まとめてでも良いので、図書活動につながるイベントを行なってほしい。 一部の学校でフロンターレなどのコラボイベント等がありましたが、数校での実績ではなく、みんなが共通の体験とできるような仕掛けを、図書館・図書活動に繋げてほしい。	図書館が毎年発表する広告柱みたいなのも何か一つ欲しいところだ。例えば、本屋大賞ならぬ「図書館大賞」とか。書店員による本屋大賞は毎年話題になり、読書に対する興味を与えるという点で一定の効果を出していると思われる。安易な考えかもしれませんが、図書館に於いても図書館大賞なるものを企画し、毎年選出すれば、非利用者に対してもアピール出来るのではないのでしょうか?	「文庫だより」の配布、「おはなし会のお知らせ」を配付。「文庫だより」は参加者、地域会合等に持参、宮前図書館にも「文庫だより」を設置。市民館・図書館の情報コーナーに置いてもらって参加を呼びかけるしか手立てはない。町内会や地域教育会議等に声をかければ広がる可能性はある		
③公共図書館との連携及び公共図書館での実施事業(令和6年度事業)	・関係機関との連携事業、コラボイベント ・ボランティア、学校司書との連携 ・おはなしボランティア連絡会		・地域文庫間の連携の模索等	・ボランティアスキルアップ講座、入門講座の開催		・かわさき電子図書館 ・団体貸出、授業支援セット ・市立図書館HP(ティーンズ特集、お薦めの絵本・児童書特集、紹介、各種特集展示) ・学社連携会議(各区) ・児童サービス委員会(高津)		・かわさき読書の日、かわさき子ども権利の日を中心とした啓発活動の推進(企業連携:フロンターレと本を読もう!等) ・より読書が身近になるイベントの開催 ・学校図書館ボランティア参加の呼びかけ(生活パターンが変わる3・4月での働きかけ)	・読書普及講演会(令和6年度は100周年記念事業として2回開催。 ①京極夏彦氏②東えりか氏) ・お勧め本(ブックリスト 100タイトル)、イチ押し本100周年記念事業	・宮前図書館との広報連携等		
④教育委員会(読書のまち川崎事業他)、市長部局、関係機関・団体等との連携				・学校教育部と公共図書館の連携(連絡会議、研修)	・区役所(企画提案型事業)	・学校教育部との連携 学校図書館における学習内容や児童生徒のニーズに応じた特設コーナーの設置、図書紹介等環境整備を推進		・かわさき子ども読書 100選(小学校低学年・高学年・中学生版) ※児童生徒用 GIGA端末トップページにアイコン(リンク)を設置予定 ・いろいろブックフェア 本でつながる川崎の多様性(市民文化局主催:学校、公共図書館、有隣堂)平成29年度～令和2年度	・宮前市民館、地域教育会議、区役所等との連携の模索	※教育委員会、市長部局、地域団体・機関で実施している事業、連携の可能性のある事業を例示		
⑤「あり方」をふまえての「量から質へ」の図書館サービスについての視点から	<p>○地域文庫活動に係る「量から質へのサービス転換」の視点</p> <p>1 活動の特徴 地域に根ざし、子どもと同じ目線に関わることで、自然な読書体験を提供。生活空間に溶け込む読書環境を重視</p> <p>2 現在の取組 本の紹介、工作、絵画、自作紙芝居の上演など多様な活動を実施。魅力あるイベントで参加を促進</p> <p>3 今後の展望 学校・公共図書館との連携強化、子どもの居場所づくり、イベントの魅力向上を目指す</p>			<p>○想定顧客を知ることから始める「量から質へのサービス転換」の視点</p> <p>一般市民の読書環境や関心、読書しない理由を把握し、図書館が「情報や考え方の出会い」を身近に感じられる工夫が必要。具体例として、返却本・新着本コーナーの演出、キーワード別ディスプレイ、心に残る文章紹介などが挙げられる。 こうした仕掛けにより読書体験が広がる可能性がある。スペースに制約がある場合は、図書館HPでの演出も有効。「量から質への転換」を図るため、顧客視点での工夫が重要。</p>								※あり方の3つの取組、量から質へをテーマに意見交換を行う
関連資料	参考資料No.2(ボランティア・地域文庫他の活動資料)							・図書館活動報告書(令和6年度)	・【追加参考資料】いろいろブックフェア		※当日配付(ボランティア関係他資料等)	

※理想【課題を克服できた】の状態に近づけるための施策を検討

※具体的な施策を考える(例示)、また既存施策を発展させる(委員回答転記及び参考例示)

※実際に公共図書館で実施している事業、活動例を列記

※教育委員会、市長部局、地域団体・機関で実施している事業、連携の可能性のある事業を例示

※あり方の3つの取組、量から質へをテーマに意見交換を行う

※当日配付(ボランティア関係他資料等)